

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成 25 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	生活文化の形成における家事家電製品のデザインと広告の変遷				
配分を受けた 特別研究費	特別研究費			1,440	千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	デザイン	生産造形	教授	伊豆 裕一	他 2 名
発表の方法	1 紀 要 名 称:  電気釜のデザインと広告の変遷における調理 家電と食文化の関係			号 数	第 15 号 ( 73 頁～ 84 頁) (2015年 4月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:  食文化シンポジウム「食文化と電気釜」  (学内、26 年度研究成果の発表と合 わせて開催)			発表日	平成 27 年 2 月 9 日

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の 3 月末までに提出

(研究の目的等)

日本における電気釜のデザインの変遷について、技術、生活文化、広告の変遷を調査し、更に日韓における食文化との関係を比較することで、生活文化と家電製品の関係を多面的な視点から考察することを目的とした。

(研究の実施方法等)

- (1) 日本における炊飯器のデザインと広告の変遷に関する調査と考察。
- (2) 日韓における炊飯器の歴史と文化的背景に関する調査と考察。

(得られた成果等)

(1) 電気釜のデザインは、米を炊くという基本機能は変わらないまま、誕生以来60年の間に、色だけを見ても単色、花柄、プラスチック、ステンレス、光沢塗装と外装デザインのトレンドが何回も変化している。この理由として、デザインと広告の両面から調査を行った結果、「最新モデル=おいしいご飯が炊ける」との認識だけではなく、各時代における生活者の意識、ライフスタイル、さらには住環境の変化などが製品の開発やコミュニケーションに反映されて来たことが示された。

(2) 日本と韓国の電気釜のデザインについて、食文化の視点から比較を行うことで、両国の最新モデルに見られるデザインの違いに、それぞれの地域の食文化が影響していることが示された。